

6月知技研例会テーマ「PDF」

2006年6月17日 永田浩章

●そもそもPDFとは何か？

Portable Document File の略で意味は、持ち運べる文書形式。

●今、なぜPDFなのか？

次期バージョンのオフィスに、PDF作成機能が標準搭載される。

作成・編集ソフトの低価格化。

→これまではアクロバットのスタンダードでも3万8000円だったものが、ソースネクストの「いきなりPDF」などは2000円くらいから買い始めることができ、各種機能をフルに買い揃えても1万円ちょっとですむ。

※ 官公庁の申請書等も最近はPDFによるデータ配布が多くなってきている。

これらに事前に記入にしておけば、窓口への申請はスムーズに運ぶのだが、これを一度印刷して、中に手書きで記入するのではなく、編集機能があれば、パソコン上で必要事項も記入したうえで、印刷しての提出も可能となる。

さらには、それをデータで送ることでOKということも、いずれはスタンダードになっていく可能性もある。

●PDFの利点

1) 印刷結果と（ほぼ）同じ見た目のものを、ソフト・パソコンの能力を問わずに、表示させることができる（同じワードであっても、バージョンが違えば、見た目が変わることもある）。

→アドビのリーダーさえあれば、OK。リーダーもネット上から無料で簡単にダウンロードできる。

2) 印刷物でもPDF化すれば、検索が可能となる。

3) 他の文書ファイルよりも容量が小さくなるので、メール添付などにも最適。

●これからのPDFの課題

やはり書類のファイル化のためには、OCR機能の充実（精度と手間）が求められる。

補足（伊藤）

◇pdf作成ソフト

（本家）adobeのacrobat：高い、pdf文書の手直しなど編集機能豊富

（アプリ）pdf出力機能付きのDTPソフト：永田さん

（フリー）クセロpdf：仮想プリンター、インストールすればプリント出力付きのすべてのアプリからpdf作成可能

（フリー）PrimoPDF：仮想プリンター、海外ソフトのよう

（フリー）ConcatPDF：MS系、インストールややこしそう

（Webサービス）PDFノートパッド：Webフレームに入力するとA4のPDFを出力してくれる

（ソースネクスト）いきなりPDF 1980円

◇pdf変換してくれるスキャナー（Canonなど？）

紙ドキュメントをスキャンするとダイレクトにPDF作成、よそから預かった資料の場合は都合よい。出力解像度（150-400dpiくらい）と圧縮レベル（標準/高圧縮）の設定でかなり仕上がりとファイルサイズが変わってくる。

◇Web検索

現在は、YahooやGoogleでpdfも検索可能、HTMLバージョン表示も可能、HTML表示版でテキストのコピーなどが容易になる

◇pdf文書を開けたとき、ウィンドウの大きさが気に入らない時があると思います。通常は、表示倍率を100%（原寸）に指定しておく次回からも有効になる。